

4月号に引き続き明治時代の陶器商・満留寿商会加藤助三郎について紹介します。

陶磁器の卸売りでの中間利潤が不当に高くされていることが価格高騰を招き、販売を抑制していると考えた助三郎は、明治23年(1890)に「陶器毎年一月相場」を掲載した『陶器商便覧』を刊行しました。翌年には月刊『陶磁器相場報告』を創刊して全国の陶業者へ配布しましたが、これを阻止しようと妨害する同業者もありました。しかし助三郎は少しも屈せず、同27年(1894)1月より



▲明治27年陶器商報第1号(個人蔵)

相場に加えて雑報や広告、全国の新聞から転載した陶磁器関連記事も掲載した『陶器商報』を刊行しました。このような様子から助三郎は「陶器将軍」と呼ばれました。発刊の願書には「従来我が国陶磁業に関する新報雑誌等のかつてこれなきを遺憾に存じ、(中略)内外陶磁器の沿革・古今の商状・工芸・進歩の比例等およそ本業に関する内外の記事を輯載し、(中略)殖産興業・商運拡張の便を図り、海外貿易の途をひらき、国家交易の万一を裨補(助ける)せんとする」とあり、陶器商報への助三郎の思いを知ることができます。



▲企画展「陶器将軍 加藤助三郎」

文化財保護センター企画展
「陶器将軍 加藤助三郎」(~8月24日)

土岐川観察館の自然だより

青と緑の物語

土岐川観察館 TEL 21-2151

クズの葉でポン!

春の植物が一段落すると、秋の七草のひとつにもなっているクズがツルを伸ばし始めます。1カ月もすると土岐川の河原や空地の空間を一面の葉っぱで敷き詰めてしまいます。1日1メートル伸びるともいわれます。



▲クズの花



▲ちょっとへこませて

人には嫌われることの多いクズですが、子どもたちとの草花遊びの大切な材料です。クズの柔らかそうな葉をとって親指と人差し指で輪を作ります。そこに葉を少しへこませるように乗せて、思いっきり平手でた

たきます。ちょっと痛いかもしれませんが、それくらいの勢いでたたくと葉が破けて「ポン!」と鳴ります。「クズの葉でポン!」と名づけました。

クズの葉は、ツルから伸びた柄に3枚の葉がついています。この葉柄を20本ほど採ってムカデを編んでみましょう。

葉柄の太くなったところを2本並べると目玉です。左右に葉柄を巻き付けていくとムカデの足です。20本ほど使って完成させます。もっと沢山使って長いムカデを作るのも楽しそうです。

(多治見植物の会 深谷 滋浩)



▲右でクルリ、左もクルリと足を編む



▲完成したムカデ